

曾於市の未来予想図 「エリアビジョン」ができました

基本方針1

曾於のポテンシャルを引き出し「暮らす価値」を示す

基本方針2

つながりを取り戻し曾於のアイデンティティを育む

基本方針3

曾於を面白くする人材とつながれる場をつくる

事業の目的

市では、市営住宅の建て替えをきっかけに、地域のさまざまな課題を解決するための公民連携によるエリア開発事業の検討を進めています。この取り組みを進めるにあたり、地域の将来像やまちづくりの方向性をまとめた『曾於市エリアビジョン』を策定しました。

このビジョンは、これまでのまちづくり講演会やフィールドワークなどを通して寄せられた市民や事業者の皆さんの意見・想いを反映して作成したものです。行政が一方的に決めるのではなく、地域とともに考え、共有していくための『共通の土台』として位置づけています。今後はこのビジョンをもとに民間提案制度などを活用し、具体的な事業の実現に向けた検討を進めていきます。

教育・健康・文化の拠点が集まるこの地域が、子どもから高齢者まで安心して暮らせる場所となるよう、市民・事業者・行政が協力しながら、魅力あるまちづくりを進めていきます。



詳細はこちら

曾於の課題2

□ 広大な市域における人々の交流が減り
曾於全体の一体感が弱まっている

子どもを遊びに連れて行くにも車の送迎が必要

交通手段の無い親子や、学校から離れた場所に住む家庭が孤立している

宿泊施設が少なく、曾於に滞在するきっかけがない

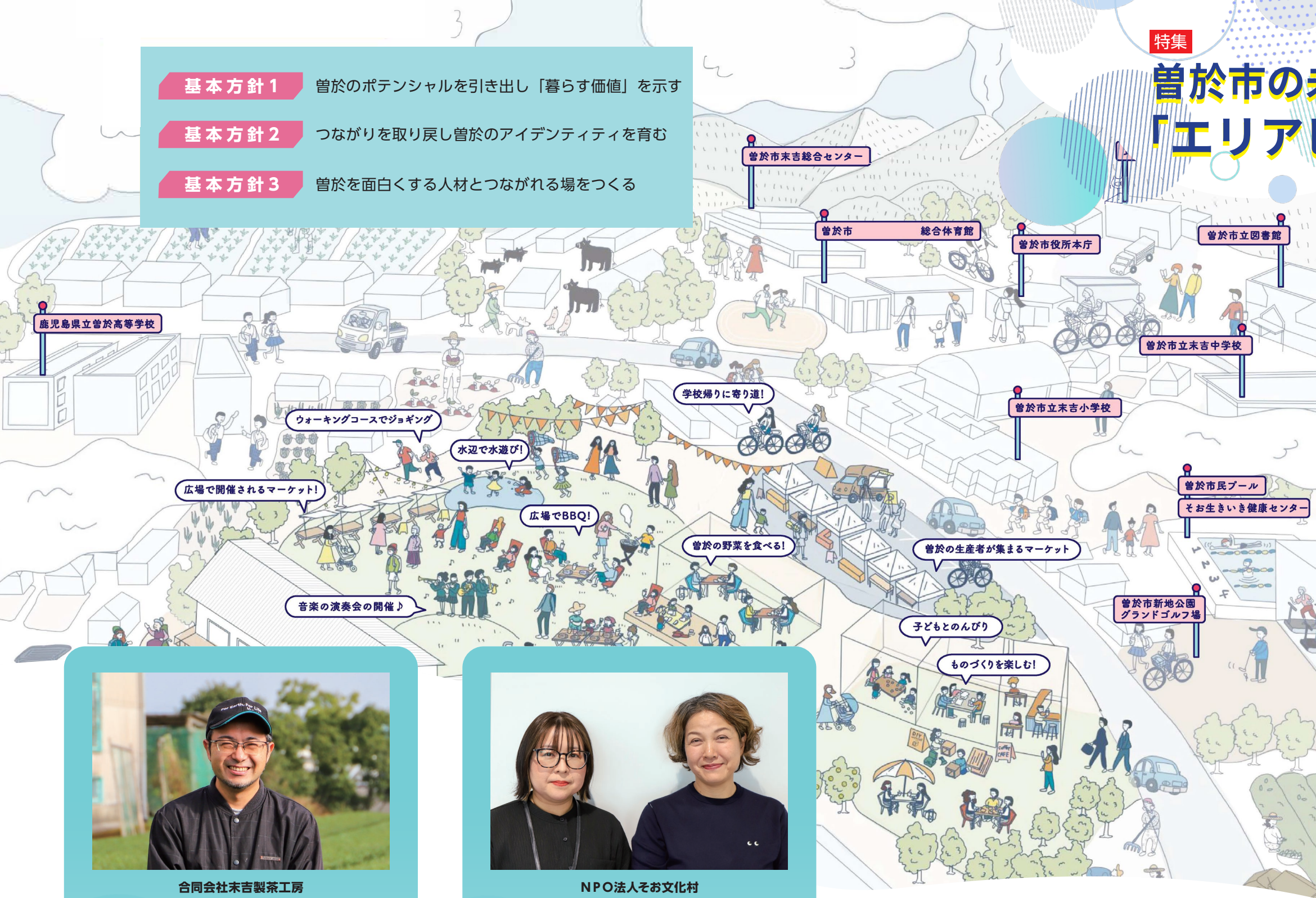
曾於の課題1

□ 若い移住者や子育て世代を呼び込むための暮らしの魅力が弱い

市内に小児科があればいいという声をよく聞く

高校生が街で思い出を残せる場所がない。街の仕事を知る機会がなく将来のUターンが見込めない

屋根がある公園があったら嬉しい



合同会社末吉製茶工房

又木 健文 さん

末吉町でお茶作りをしています。計画地は茶工場の近くで幼いころからなじみのある場所です。エリアビジョン作成のために市の担当者や専門家と3回ほど意見を交わしました。そこでは市が新しいまちづくりに挑戦する熱意を感じました。エリアビジョン実現のために、同年代の友人・知人と一緒にできることがないか考えていきたいです。今住んでいる市民と将来の市民にとって住みよいまちづくりの第1歩として、良い循環が生まれたいと思います。



NPO法人そお文化村

理事
幣次 裕美 さん

理事長
松下 美智代 さん

まちづくり講演会に4年前から参加していたことをきっかけに今回のエリアビジョン作成に携わりました。ひと昔前は、大人と子どもが関わるイベントも多かったですが、段々とその機会も少なくなり人と人の距離が遠くなったと感じます。末吉町二之方エリアは教育・健康施設が集まっており、そお文化村としての活動も広がっていく可能性を感じます。子ども達や退職して曾於市に帰ってきた人達が、曾於市に帰ってきて良かったと思えるような街にしていきたいです。

効果1

市営住宅維持
管理の効率化と定住促進による税収の拡大

老朽化で分散していた市営住宅を建替え・集約し、維持管理費の削減と効率化を実現します。

効果2

曾於市の食材を
創出する機会の増進

地域の産業や暮らしに触れる仕掛けを取り入れ、曾於ならではの産業の魅力発信や新たな関わりの創出につなげます。

効果3

良質な住宅の
提供による新規
就労者の雇用拡大

良質な住宅の提供は、市内企業の人材確保や雇用促進につながり、地域経済の下支えする効果をもたらします。

効果4

子どもたちが
帰ってきたくなる
まちの実現

子育て世代が安心して暮らせる仕組みを整え、学びや成長を支える地域環境を強化します。

効果5

高齢者の
孤立化防止と健康増進のきっかけづくり

多世代が自然に交わる場を整え、孤立を防ぎ、健康増進や生きがいづくりのきっかけを提供します。

効果6

イベントによる
交流人口の増加

曾於の暮らしや文化を体感・発信できる窓口として、市外から訪れる人に地域の魅力を伝えます。

効果7

周辺健康増進施設との連携による市民の健康づくりの強化

地域活動や文化継承の拠点として活用し、スポーツや祭り・文化的な取り組みを支えます。

効果8

地域
コミュニティの
防災力を強化

多世代が集まる場を整え、平常時からの関係性を基盤とした災害時の助け合いにつなげ、安心・安全な暮らしを支えます。

エリア開発事業は、末吉町二之方エリアの価値を高めるほか農畜産業や観光振興など曾於市全体のまちづくり事業に役立つポテンシャルを秘めています。



まちにほしいものを
曾於高校生に聞いてみた！



公民連携ってなに？

行政と民間（企業や市民団体、NPOなど）が協力して、地域や社会の課題解決にあたる仕組みや取り組みを行い「地域を共に創る」ことを目指します。みんなが主体的に関わり、人材・知識・場所・ネットワークなどを出し合って、課題の解決や価値の創出を進めるような仕組みです。

公民連携である意義

1 公民それぞれの強みを補完しあう

行政は土地の整備や制度の仕組みづくりなど、まちづくりの土台となる部分を担当します。民間事業者は、柔軟な発想で魅力ある空間づくりや運営を進め、地域に活気を生み出す役割を担います。民間提案制度を活用することで、「民間事業者の創造性と投資意欲」が最大限に発揮されるまちづくりを目指します。

2 市場ニーズに即したエリア開発を可能に

単なる市営住宅の建替えではなく、さまざまな世代や暮らし方に合わせた住まいづくりを進めます。さらに商業・福祉・子育て支援施設などを組み合わせた「複合拠点」として再整備し、その可能性を実現していきます。

3 公共投資が民間投資を触発し、エリア全体の価値を高めていく

整備された基盤に民間の活力を呼び込み、そこから生まれる「拠点」や「物語」が、まちの価値を高めていく好循環につなげます。公共性と採算性のバランスを取りながら、地域で「持続可能な豊かさ」を築いていくモデルケースを目指します。



開発敷地における造成工事

住宅の入居促進や入居者の生活満足度に直結する広場およびランドスケープの造成工事

子育て世代のニーズに合う子育て支援政策

末吉町二之方エリアにある教育・健康増進施設との連携強化

対象
エリア



末吉町二之方エリア

行政・教育・健康の施設が集まるこのエリアには、市役所・図書館・末吉小・末吉中・曾於高校がそろい、暮らしと学びを支える環境が整っています。特に末吉小学校では校舎の改築が進み、子ども達が安心してのびのびと学べる環境づくりが進行中です。このエリアに「交流を促す拠点」が生まれることで、施設と人がつながり、にぎわいとあたたかさが広がるエリアとして、まちの魅力がより一層高まっています。